

映画『ブリット (Bullitt)』 (アメリカ サンフランシスコ)

会誌編集専門委員会

概要

1968年公開のアメリカ映画。同年度アカデミー編集賞受賞。監督はイギリス人の故ピーター・イエーツ。日本では翌年に公開され、洋画配給収入1位となった。上映時間114分。

サンフランシスコ市警察本部捜査第一課のクールなブリット警部補に扮した故スティーブ・マックイーンが主演。エンジン音が鳴り響きわたるフォード・マスタングを操るマックイーンと敵のダッジ・チャージャーによるサンフランシスコの急坂を使ったカーアクションや、サンフランシスコ空港での追跡劇が印象的なアクション映画。ラロ・シフリンの音楽も殺伐とした雰囲気は一役買っている。

リアリティーを出すため、実際の公道ではマックイーンがスタントなしでカーチェイスを繰り広げた。映画史上画期的なカーチェイスで、後の映画のカーアクションに大きな影響を与えた。

あらすじ

ギャング組織壊滅のため、司法取引によって、200万ドルを持ち逃げしたギャングのジョニーは、証人としてサンフランシスコ市警察本部に保護される。しかし、護衛を担当した刑事ブリットが恋人キャシー（ジャクリーン・ビセット）と非番デート中に証人ジョニーは殺され、護衛の刑事が重傷を負ってしまう。ブリットは「証人が生きています」という偽情報を流し、殺し屋をおびき寄せる作戦に出る。そして、殺し屋とブリットの、サンフランシスコの急坂を疾走する追跡劇が始まる。その後、ジョニーの妻も殺され、ホテルを捜索した結果、ジョニー夫妻はニセ者だったことが判明する。ブリットは残されたパスポートから、本物のジョニーがヨーロッパへ高飛びすると確信し、サンフランシスコ国際空港へ急行する。広い夜の空港で逃げるジョニーと追うブリットとの追跡劇。ついに空港のロビーでジョニーを追いつめる。

幅広い急坂がある街

かつて勝海舟や福澤諭吉らが咸臨丸で訪れた、アメリカ・カリフォルニア州中部の港湾都市サンフ



写真1 DVD『ブリット』のパッケージ



写真2 霧にかすむゴールデンゲートブリッジ



写真3 バイブリッジ



写真4 サンフランシスコ空港の滑走路



写真5 サンフランシスコ空港のエントランス



写真6 ケーブルカーも通るパウエルストリート

ランシスコ。ゴールドラッシュで栄えたが、1906年4月18日にサンフランシスコ大地震に襲われ、その火災で街の3/4以上が灰燼に帰したが、急ピッチで復興した。現在はゴールデンゲートブリッジ（1937年完成）、ケーブルカー（1873年完成）、そして坂道で有名な街となっている。そこが映画の舞台である。

映画にゴールデンゲートブリッジは登場しないが、オークランド市に繋がる1936年完成の全長7kmのベイブリッジが背景となるシーンがある。1927年開港という歴史の古いサンフランシスコ国際空港の滑走路とエントランスでの追跡シーンがラスト。途中で登場するケーブルカーの一つはホテルが連なるパウエルストリート。急坂はカーチェイスのシーンで効果的に使われ、あまりにも急なことから車を横向きに駐車する坂や、両側歩道が階段になっている坂もある。また、映画には出て来ないが「世界一曲がりくねった道」と呼ばれるロンバートカーブは、1922年まで27%勾配の250m区間に、登りやすくするために8つのカーブと、空いたスペースに花を植えて改良された。現在、車は下り一方通行。サンフランシスコは幅広の急坂がある街との印象が強い。なお、一介の刑事でありながらブリットのアパートは高級住宅街のノブヒルにあることになっている。ここにはゴールデンゲートブリッジ建設のチーフエンジニア、ジョセフ・シュトラウスも橋が一望できるとして住んでいた。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1)『ブリット』DVD 1998年 ワーナー・ホーム・ビデオ
- 2)『地球の歩き方 アメリカ'13~'14』地球の歩き方編集室 2013年 ダイヤモンド社
- 3)『るるぶ情報版 サンフランシスコ』2012年7月 JTBパブリッシング
- 4)『エイバーロード』(http://www.ab-road.net/north_america/usa/san_francisco/guide/03958.html)
- 5)『フォートラベル』(<http://4travel.jp/travelogue/10378705>)

<写真提供>

- 写真1 塚本敏行
写真2 初芝成應
写真3、7、10 近藤安統
写真4、5、9 川崎謙次
写真6 茂木道夫
写真8 佐々木勝



写真7 乗り降りしづらい横向き駐車急坂



写真8 両側の歩道が階段の急坂



写真9 ロンバートカーブを下る車
写真10 坂を登り切った左手辺りがノブヒル